

桐生市立商業高等学校（定時制）

学 校 評 価 一 覧 表 ①

（令和４年度版）

（様式１）

羅 針 盤			方 策	第１回 点検・評価			第２回 点検・評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	１ 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、85％以上である。	- 積極的に声かけをするなど、日頃から生徒の様子に注意を払い、学校生活を支える。 - アンケートによる実態把握を行う。	B	A	生徒の90％、保護者の86％が楽しく学校生活を送ることができていると回答している。今後も生徒の学校生活を支える取り組みを継続していきたい。	A	A	生徒の89％、保護者の83％が楽しい学校生活を送っていると回答している。きめ細かい学習指導や、生徒個々への丁寧な対応を各職員が心がけており、生徒にとって落ち着いた気持ちで学習に取り組むことができる環境であり続けたい。
		②球技大会や地区体育大会などの特色ある学校行事に、生徒の85％以上が満足している。	- 生徒会行事では、生徒会役員を中心とした企画の立案・運営を実践する。 - 地区定通制高校との連携を強化する。 - アンケートによる実態把握を行う。	B	B	生徒の79％が学校行事に積極的に参加していると回答している。今後は学校行事を生徒がより楽しみ、充実したものになるよう、話し合いを重ねて改善点を考え、より良いものにしていきたい。	A	A	生徒の87％が学校行事に積極的に参加していると回答している。今年度は地区体育大会にも参加することができ、生徒の充実した様子を見ることができた。今後は生徒会役員を中心に、さまざまな行事で生徒自身が意欲的に活動できる場を増やすなど、行事を改善していきたい。
		③総合的な探究の時間（「ふれあいの時間」）に、主体的に取り組んでいる生徒の割合が、85％以上である。	「ふれあいの時間」では他学年の生徒との交流や、各自が設定したテーマに沿って、積極的な活動ができるように支援する。 - アンケートによる実態把握を行う。	A	A	「ふれあいの時間」について、生徒の84％が積極的に取り組んでいると回答しているが、個々の活動に対する目標設定や活動状況、ふり返り等について、さらに充実した内容になるよう、改善していきたい。	A	A	「ふれあいの時間」は生徒の95％が積極的に取り組んでいると回答している。生徒の様子やアンケート結果からは充実していることが見て取れるが、「総合的な探究の時間」として、内容や運営方法などの点で改善が必要な部分もあり、来年度に向けて職員間で議論をしている。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	２ 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業に対する生徒の評価を実施して、授業改善を推進する。「授業が分かりやすい」と回答する生徒の割合が85％以上である。	- 生徒の実態に応じた協働的な学習（学び合い学習）を実践する。 - カウンセリングマインドに立った授業改善に努める。 - ICTの活用を推進する。 - アンケートによる実態把握を行う。	A	A	「分かりやすい授業が行われている」と回答した生徒・保護者ともに約90％であった。生徒の実態に即した授業が取り組み、双方向のやりとりができる授業展開を進めていきたい。	A	A	「分かりやすい授業が行われている」と回答した生徒は92％であったが、一部の生徒は難しさを感じている。今後、ICT活用による情報伝達の可視化と生徒の特性に応じた個別最適化を図れるよう努め、職員間で情報共有する必要がある。
		⑤簿記や情報など資格取得に向けた指導に生徒の85％以上が満足している。	- 各種検定試験合格に向けた授業等を工夫する。 - 生徒の実態に応じて、補習や課題を実施する。 - アンケートによる実態把握を行う。	A	B	「資格取得に向け意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が82％であった。２学期末から本格的な資格取得シーズンに入り、地道な学習を繰り返し、補習等でバックアップを図り、検定取得に励みたい。	A	B	欠席が多い生徒が増え、授業のやり直しや振り返りで時間を割くため、学習面の2極化が目立つ。手厚い指導をするために上級を目指す生徒対応と基礎基本を学ぶ生徒対応を分けた指導が必要であり、部活動や放課後の学習を有効に活用したい。
	３ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥定期テストや検定試験のために学習をする生徒の割合が、85％以上である。	- 学習の基礎・基本の定着のための授業内容及び指導法の改善を図る。 - 定期試験直前や試験中の家庭学習を促す指導を継続する。 - アンケートによる実態把握を行う。	A	A	「定期テストや検定試験のために学習をする」と回答した生徒が87％であり、前向きな学習に取り組めている。今後、動機付けを高めていけるような方策を検討したい。	B	B	昨年度同様に具体的数値目標の⑤と⑥の評価に相関関係がみられる。⑤と⑥の指導上の留意点を再度見直していきたい。今後は、ICTのリテラシーと学習の動機づけを高める方策を並行して研究し、教科を超えて新しい学びを考える必要がある。
		⑦評価点で成績不振科目のある生徒の割合が5％未満である。	単位の履修・修得の重要性を認識させ、不振科目をなくすための指導を、各学期ごとに全校集会等で行う。	C		１学期に成績不振科目を持つ生徒の割合は7.5％であった。学習成績による不振だけではなく多欠席が原因となっていることが現状として挙げられる。基本的な生活習慣を身につけることから始めていきたい。	D		学習内容が高度化し、成績不振科目を持つ生徒の割合が15.4％と増加してしまった。上述の課題解消が改善策となるため、今後も養護教諭やＳＣ等の助言を参考に、生徒の基本的な生活習慣の見直しと改善を図りたい。

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧職員打ち合わせ等において、生徒に関する情報交換を毎日実施している。	・毎日の職員打ち合わせや週 1 回の連絡調整会議において生徒に関する情報交換を行い、全職員間での共通理解を図る。	A		・今後も、職員打ち合わせや連絡調整会議を継続実施するなかで組織的な生徒理解に努め、諸課題に対して適切かつ迅速に対応する。	A		・年間を通して職員打ち合わせや連絡調整会議を継続実施するなかで組織的な生徒理解に努め、諸課題に対して適切かつ迅速に組織で対応することができた。
		⑨学校の生活指導（あいさつ、頭髪・服装、遅刻・早退指導等）が適切であると回答する生徒・保護者の割合が90%以上である。	・全生徒が充実した学校生活を送ることができるよう丁寧な指導・支援を継続する。 ・生徒及び保護者を対象としたアンケート調査により実態を把握する。	A	A	・生徒の97%、保護者の97%が適切であると回答し、本校の指導に理解を示している。今後も生徒の気持ちに寄り添った指導を心がけ、生徒、保護者ともに100%となるよう取り組む。	A	A	・生徒の97%、保護者の97%が適切であると回答し、本校の指導に理解を示している。今後も生徒の気持ちに寄り添った指導を心がけ、生徒、保護者ともに100%となるよう取り組む。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が90%以上である。	・月 1 回の「生活アンケート」や定期的な個人面談等を実施し、その結果を毎日の職員打ち合わせや週 1 回の連絡調整会議において全職員で共有することで、全職員で全生徒を指導する体制を確立する。 ・SNSの適切な利用法に関する教育、情報モラル教育を強化する。	A	A	・95%の生徒が適切に行われていると回答している。すべての生徒が安心して安全に過ごすことができる学校を目指し、適切と回答する生徒が100%となるよう取り組む。	A	A	・97%の生徒が適切に行われていると回答している。今後も月 1 回の生活アンケートや定期的な個人面談を継続するとともに、いじめの防止や早期発見に向けた生徒主体の取り組みを充実させ、すべての生徒が安心して安全に過ごすことができる学校を目指し、すべての生徒が適切と回答するよう取り組む。 ・12月に実施した携帯安全教室を通して、情報モラル教育を推進することができた。
		⑪いじめの解消率が100%である。	・いじめや嫌がらせ行為が疑われる場合は、桐生市立商業高等学校いじめ防止委員会（定時制課程）が迅速かつ組織的に対応する。	B	B	・6月に一件のいじめを認知し、桐生市立商業高等学校いじめ防止委員会（定時制課程）において迅速に対応した。その後一定の解消は図られたが、長期的な視点で観察を継続する。	A	A	・6月に認知されたいじめについては、2学期を通して経過観察を継続したが、当該生徒の本人談をもって解消と判断した。 ・この一件以降、いじめは認知されていないが、今後もじめや嫌がらせ行為が疑われる場合は、迅速かつ組織的に対応する。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫欠席率が10%以下、遅刻率が5%以下である。	・欠席率、遅刻率、早退率を把握する。 ・欠席、遅刻、早退に係る家庭への迅速な連絡を徹底し、保護者に協力と理解を求める。 ・欠席の理由や背景を保護者と共通理解し、状況に応じた指導及び家庭と連携した指導の充実を図る。 ・定期的な登校時指導や遅刻防止指導を行う。	A		・1学期の欠席率は8.9%、遅刻率は4.3%、早退率は0.7%であった。生徒の実態に配慮しつつ、家庭と連携し数値の改善を図りたい。 ・継続して、保護者と連携をとり、生徒へ声かけ等を行い、学校全体で取り組む。	B		・2学期の欠席率は11.6%、遅刻率は7.4%、早退率は0.6%であり、欠席率及び遅刻率については1学期よりも悪化し、年度当初に設定した目標数値を達成することができなかった。これまで以上に、欠席や遅刻の背景を十分に理解するよう務め、家庭との連携を強化しながら数値の改善に向けて積極的に生徒へ働きかけていく。
		⑬交友関係がうまくいっていると感じている生徒の割合が、90%以上である。	・養護教諭やSCを含めた教育相談体制を確立し、生徒の立場から相談しやすい人間関係を構築する。 ・学校あるいは外部機関における相談窓口を生徒及び保護者に積極的に周知する。 ・生徒を対象としたアンケート調査により、実態を把握する。	A	A	・生徒の92%がうまくいっていると回答している。生徒同士が互いに尊重し、共感的に理解し合うことができる人間関係の構築を目指し、支援を継続したい。	A	B	・生徒の89%がうまくいっていると回答しており、年度当初に設定した目標を達成することができなかった。交友関係に対する不安や悩みを取り除くための手段として教育相談的な取り組みを今一度強化し、生徒の声に耳を傾ける体制を整備していく。さらには、生徒同士が互いに尊重し、共感的に理解し合うことができる人間関係の構築を目指し、支援を継続したい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭「自己の生き方」と「将来の職業」とを関連させた進路指導を行っている、生徒の90%以上が評価している。	・外部機関と連携した定期的な進路ガイダンスやLHRにより系統的なキャリア教育を実施する。 ・就業の促進と就業経験を生かした進路指導を行う。	A	A	・「計画的な進路指導を行っている」と回答した生徒が90%であった。学年別では、1年生に「あてはまらない」と答えた割合が多かったため、キャリア・パスポートの有効活用を図りながら、進路についての理解を深めさせたい。	A	A	・「計画的な進路指導を行っている」と回答した生徒が100%であった。学期ごとに実施している進路希望調査では、進路が未定の者も多く、進路ガイダンスやキャリア・パスポートを活用し、生徒が自分の将来設計に関心を持ち、取り組めるように工夫していきたい。

	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。	・個別面談を実施して各学年の段階に即した、きめ細かい指導を実践する。 ・全日制進路指導部やハローワークと連携し、進路資料等を有効に活用する。	C	・「将来の目標を持ち、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が58%であった。自らの生涯設計について関心が薄く、受け身の生徒が多い。授業や資格取得、部活動等、高校生活の充実が進路につながることを理解させ、積極的に取り組めるようにしたい。	C	・「将来の目標を持ち、それに向かって積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が60%であった。現4年生が順調な進路活動ができたのは、基本的な生活習慣（特に出席率）も大きく関わるとされる。今後も生徒の日常生活を充実させながら、進路意識を高めていきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯保護者面談等に積極的に参加している保護者の割合が80%以上である。	・PTA総会、保護者面談の案内・返事の確認を徹底する。 ・アンケートによる実態把握を行う。	B	A ・保護者面談には、ほぼ全員の保護者が参加している。 ・PTA総会の出欠確認および委任状の提出状況は90%をこえ良好であった。	B	A ・86%の保護者が学級面談、授業参観、PTA総会に参加しようと考えている。参加しやすいような日程や時間、内容等を配慮していく。
		⑰Webページの変更があったとき、速やかに更新している。	・在校生の活動状況や入試情報を閲覧しやすくする。	B	・定期的に更新できているが、生徒目線、保護者目線で必要な情報を提供できるようにアンケート等も取り入れたい。	B	・学校行事のUP率がよくなかったので、イベントごとに確実にUPしていきたい。年度後半は、入試情報が多くなるので、受験希望者に向けてのPRになるような内容を工夫していきたい。
		⑱Webページを見たことがある保護者の割合が80%以上である。	・Webページの更新を逐次行い、デザインを工夫する。また、重要な連絡や身近な出来事を掲載し閲覧を促す。 ・配布物にQRコードを載せ、Webページの閲覧を促す。	B	C ・生徒の73%、保護者の63%が閲覧している。生徒の学校での様子等、内容を充実させたい。	B	C ・生徒の70%、保護者の57%が閲覧している。生徒の活動状況や家庭連絡をこまめに掲載し、学校の様子を理解してもらえるようにしたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲PCやプロジェクターなどを活用し、授業を行っている教員が100%である。	・PC周辺機器の充実をはかり、ICT機器が効果的に利用できるように工夫する。	B	・タブレットPCを活用したグループミーティングやプレゼンテーション等、多面的・多角的に運用できるよう、教員間の情報交換を図っていく。	B	・授業でのICT活用は、パソコンとプロジェクターの利用を中心に定着しているが、今年度から配布された生徒用タブレットPCは、まだ十分活用されているとは言えず、今後、各授業での活用を推進したい。
		⑳Wordで文書を作成したりExcelで表を作成したりすることができる生徒が100%である。	・商業科目の授業で、基本的なアプリケーションの操作や知識を指導する。	A	・タブレット学習を効果的に運用するため、データ入力の基礎学習を進めている。	A	・今年度から、1年次で「情報処理」を履修している。ワードやエクセルの基本を早期に習得させ、タブレットPC操作にも活かせるように工夫している。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑校内ネットワークを通して、分掌業務でICTを活用できている教員が100%である。	・校内ネットワークを活用し、情報の共有化・可視化をはかる。 ・日程変更や緊急連絡等を桐生市ふれあいメールを活用し、情報を共有する。	A	・分掌業務の効率化や授業改善が図れるよう、フレームワークのスリム化を進めていく。	A	・今後も、会議資料や成績資料を紙ベースからPDF等の電子データに段階的に変更していく。 ・ICTの活用により、情報の共有化と業務のスリム化を図る。

※ 自己評価・外部アンケート等：個々の具体的数値目標について評価し、次に従いアルファベットで記入した。
A：数値目標達成 B：約80%達成 C：約60%達成 D：約40%達成